

事業コード	H27-建-継-05		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(交通安全)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	歩道設置事業		班 名	道路環境・維持班 (tel) 018-860-2488
路線名等	主要地方道 大曲横手線		担当課長名	佐藤 和義
箇所名	横手市静町		担当者名	佐藤 朋章
プランとの 関連	政策コード	04	政 策 名	安全で安心な生活環境の確保
	施策コード	03	施 策 名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	01	施策目標(指標)名	快適で利便性の高い道路環境の整備

## 1. 事業の概要

事業期間	H24 ~ H29 ( 6年)		総事業費	6.8億円	国庫補助率	7/10
事業規模	延長L=1,600m 幅員W=6.0(12.0)m (1.25+3.00+3.00+1.25+3.50)					
事業の立案 に至る背景	<p>主要地方道・大曲横手線は、大仙市大曲を起点として大仙市大曲角間川を經由し横手市中心市街地に至る幹線道路である。</p> <p>当該箇所において、鳳、金沢、横手西中学校の3校が統合した横手北中学校が平成25年4月に開校した。また、平成28年4月には、境町、黒川、金沢小学校の3校が統合した統合小学校が開校予定である。当該区間は、大型車交通量が多く、車道幅員が5.5mと狭小で、歩道も1.5mと狭小な状況である。そのため大型車同士のすれ違いや歩行者の安全等に支障をきたしており、安全で円滑な交通の確保を図るため、早急な通行空間の整備が望まれている。</p>					
事業目的	<p>○通学路における児童・生徒の安全確保(安全な生活環境の確保)</p> <p>○大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくり支援)</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		480,000	675,000	195,000	
	経費 内訳	工事費	250,000	355,000	105,000	土工計画(地盤改良等)の変更による。
		用補費	215,000	295,000	80,000	修正設計による補償物件数の増。
		その他	15,000	25,000	10,000	調査・設計委託費の増工による。
	財源 内訳	国庫補助	336,000	472,500	136,500	
		県 債	129,400	182,000	52,600	
その他		0	0	0		
一般財源		14,600	20,500	5,900		
事業内容		用地買収 建物補償 歩道工事 L=1,600m	用地買収 建物補償 歩道工事 L=1,600m			
事業の進捗 状況	<p>○平成26年度末で事業進捗率63%(用地進捗率88%)</p> <p>○一部(L=820m)供用済み。</p>					
事業推進上 の課題	○一部、用地交渉が難航している。					
関連する計 画等	○統合小、中学校(横手北中学校、統合小学校(名称未定))の建設事業。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	<p>○平成28年4月に、堺町、黒川、金沢小学校の統合小学校が開校予定。(開校時児童数250~300人)</p> <p>○道路拡幅部について地盤改良が必要になったこと、及び現道部舗装に劣化が認められ舗装工を増工したこと等により工事費が増額となった。また、修正設計により用地買収面積及び補償物件数が増えたため、用地補償費が増額となった。</p>					
事業効率把 握の手法及 び効果	指 標 名	歩道整備率				
	指 標 式	実績延長/道路延長				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目 標 値 a	39.6 %	データ等の出典	道路課調べ		
	実 績 値 b	39.1 %				
達成率 b/a	98.7 %	把握の時期	平成27年4月			

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	○本路線は、生活圏中心都市である旧大曲市と横手市を結ぶ幹線道路であり、地域間交流及び通勤通学等の日常生活を支える重要な路線である。 ○本工区沿線に統合小中学校が開校することに伴い、歩行者・自転車数が増大することが予想されるが、当該区間の車道幅員・歩道幅員とも狭小であり、大型車等のすれ違い時に歩行者が危険にさらされている状況である。	25点
緊 急 性	○平成25年4月に横手北中学校が開校、平成28年4月に統合小学校が開校予定であり、当該区間の歩行者・自転車数は増大することが予想される。児童・生徒の安全確保のため、緊急性は高い。	30点
有 効 性	○通学路の危険箇所が解消され、児童・生徒等の安全性が向上する。 ○交通量に応じた車道拡幅を行うことにより、狭小区間が解消され安全性が向上する。	15点
効 率 性	○一部供用等を図り、効果の早期発現に努めている。	10点
熟 度	○横手市から歩道設置要望が出されている。 ○地元PTAから歩道設置要望が出されている。 ○平成27年度末には事業進捗率77%に達する見込みである(用地進捗率99%)。	8点
判 定	ランク ( ● I ○ II ○ III ) 優先度は高く、引き続き事業を実施すべきである。	88点
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト削減に努めながら、事業を継続する。
--------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
 適用基準名 交通安全事業（歩道）

事業コード ( H27-建-継-05 )  
 箇所名 ( 横手市静町 )

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	12時間自動車交通量		4,000台/12h以上	10	5	3,079台/12h
			1,000台/12h以上	5		
			1,000台/12h未満	0		
	歩行者交通量		100人/日以上	10	10	通学路以外の場合
			100人/日未満	5		
			学童・園児 40人/日以上	10		通学路の場合
			学童・園児 40人/日未満	5		
	歩道の連続性		計画区間前後に歩道あり	10	10	
			計画区間前後の一方に歩道あり	5		
			計画区間前後に歩道なし	0		
計				30	25	
緊急性	関連事業の有無		あり	10	10	統合小・中学校の建設
			なし	0		
	事故状況（死傷事故）		歩行者の死傷事故あり	10	10	
			車両単独もしくは相互の死傷事故あり	5		
			事故の発生なし	0		
交通安全総点検要対策箇所等		該当あり	10	10		
		該当なし	0	0		
計				30	30	
有効性	交通安全指定道路		あり	5	5	
			なし	0		
	通学路指定		あり	5	5	
			なし	0		
	公共施設 医療機関、公民館、図書館等		あり	5	5	統合小・中学校
		なし	0			
計				15	15	
効率性	供用開始までの期日		3年以内に供用開始可能であり効果の出現が早い	10	10	
			供用開始まで4年から5年の時間を要する	5		
			供用開始まで6年以上と相当時間を要する	0		
計				10	10	
熟度	地元の協力体制		事業に協力的	5	0	
			用地反対等の問題あり	0		
	地元住民・関係機関の意向		採択時と比べて特段の変化がない	5	5	
			採択時と比べて低下が見られるが改善の見通しがある	3		
			採択時と比べて著しく低下し改善の目処が立たない	0		
	進捗状況		進捗が順調で計画どおりの完成が見込まれる	5	3	
		多少の阻害要因があるが解決の見通しがある	3			
		阻害要因の難易度が高く進捗の目処が立たない	0			
計				15	8	
合計				100	88	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		